

エンカウンター (ENCOUNTER)

第263号

2024年3月1日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.wjg.jp>

小西芳之助導源先生「ガラテヤ人への手紙講解説教」より (8)

宗教は力

「わたしたちは、御霊の助けにより、信仰によって義とされる望みを強く抱いている。キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」(ガラテヤ書5: 5, 6)

この [5章] 5節、6節が本日の山であります。ここでパウロは、一枚看板である「信・望・愛」を展開しました。「わたしたちは、御霊の助けにより、信仰によって義とされる望みを強くいただいている」とありますが、この訳では、パウロの本当の意思が出ておりません。…「御霊の助けにより」はこれでよいでしょう。「聖霊の助けにより」というよりは、むしろ3格ですから、「聖霊によって」という意味です。英語では、「by」あるいは「through」という字です。力の根拠は聖霊によっています。望みとか愛というものは聖霊によっています。

人間の何物にもよっていない。「聖霊の助けによって」の「助け」という字は不要です。聖霊によって、聖霊を通して、聖霊の力により、であります。

聖霊というと、この世の人は、神がかっている、どうかしている、ということになる。然り、神がかっています。クリスチャンは神がかっています。普通の人間の理性の上に聖霊が乗っていることを信者という。理性だけで解き得るものであったら、そんなものを信仰とは言いません。それは哲学です。宗教とは言いません。宗教というものは、その理性を越えた、理性を制するものです。それでこそ力がある。我々の人生を支配する力があります。宗教は力です。

クリスチャンの信仰の内容は「望んでいる」こと

聖霊により、信仰によって、即ち福音を信じることによって、義とされる望みを強く抱いている、とあります。この「いただいている」というのは希望している、という字であります。クリスチャンの信仰の内容は「望んでいる」ことです。今、義とされているではありません。今は、普通とおなじこと、心は乱れています。きれいではありません。皆同じように汚れています。しかし、聖霊により、福音によって義とされる望み、即ち時来たらば、キリスト再臨し給うときに我々は復活して義となる、その義を今から望んでいる、という意味であります。

愛によって働く信仰

「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」という言葉は、学者によって非常に議論されている場所であります。キリストにあっては、割礼は問題ではなく、信仰が問題である、愛によって働く信仰だけが問題である、と。5 節においてパウロは「望み」を言いましたが、この6 節では「愛」、即ち「信仰」が問題であると言っております。その「信仰」は「愛」になって働くと。そういう信仰だけが問題であると。キリスト者にとって、割礼、即ち、道徳があるかないかということは問題ではない、と言っています。こう言いましたから、ユダヤ人は怒りました。昔、日本において、忠孝というものが救いの条件になっていないなどと言ったら、軍人は非常に怒ったことでしょう。ユダヤ人は割礼によってユダヤ人となり、それによって神の祝福を得るしるしとして受けていましたから、パウロが永遠の救いに関係がないと言ったら、けしからんとパウロを迫害しました。

信仰は自然に愛となって働く

一方、割礼を受けない、とは異邦人のことですが、そんなことは自慢にならない、と言っています。地上のそういったものは、キリスト教ではどうでもいい、ということでもあります。救いの条件にはならない。必要なのは、キリストの贖いを信じる信仰、それだけであると。これは誰にでも出来ます。学者、無学者、日本人、英国人、ユダヤ人、異邦人、誰でも行ける。そしてその信仰は、神の、キリストによる十字架の贖いによりますから、それを受ければ自然と愛となって働く、と言う。パウロが愛と信仰とを一緒に、関係付けて書いたのはここだけあります。そうですから、愛と信仰と両方がなければならぬではないか、と言う学者もいます。これはカトリックの主張であります。よくよくパウロの言っていることを聞きますと、パウロの主張は、救われるのは信仰だけである、しかし、この信仰は自然に愛となって働く、と言っているのであります。これをパウロの福音という。そしてこれは、自分のすべてを捨てて、贖いだけに頼る、自然に神の意思に従うことになります。これが新旧約聖書を通して、一貫した主張であります。しかし人間はこれに従うことが出来ない。自分は神に従っているとは思わなくとも、十字架の贖いだけに頼っていることは、全部神に任せていることになります。この福音の真理性というものは、私は、哲学者がいくら考えても考えつかないであろうと思います。

十字架の信仰

「兄弟たちよ。わたしが今でも割礼を宣べ伝えていたら、どうして、いまなお迫害されるはずがあろうか。そうしていたら、十字架のつまずきは、なくなっているであろう。」(ガラテヤ書 5. 11)

この節は非常に暗示に富む節であります。私が、もし、十字架の福音の他に、割礼を宣べ伝えていたならば、迫害されないであろう。私が迫害されるのは、割礼の不必要を述べているからである。もし、私が割礼を述べたならば、十字架のつまずきはなくなる。十字架というものはつまずきになっている。我々信じる者には、これは救いの全部であるけれども、信じない者にとってはつまずきです。そうですから、私は普通の人にはつまずきとなることをよく知っている、しかし、私は、割礼の不必要を唱えて、そして十字架を宣べ伝えているのである、と言っています。パウロの十字架の福音というものは、人間の理性にはつまずきです。信じない人の方が多いのは当然であります。…

私はこれを説いておりますが、みなさんがこの十字架の信仰を持って頂くために説いているわけではありません。私は、牧師として、この福音を述べることを命じられている。諸君が信じるか、信じないか、私は知りません。親鸞の言う通り、信じても信じなくても、それは私は知らない、君達の勝手です。私は全く親鸞と同じです。むしろこれは信じないのが普通です。信じる方がどうかしています。どうかしている人は、聖霊によってどうかされた人であります。

信じることは、理性からすれば馬鹿げています。頭がどうかしています。普通の人とは違います。ですから、私は、自分の報酬のあるなし、人が喜ぶか喜ばないかにかかわらず、自分に与えられた勤めを行なう、と決心しています。あなたがたが信じなくてもよい。私は、ここで福音を宣べることが命じられているから説いているだけであります。

「なすべきことをなすこと」これを愛という

信仰というものは、信じたら、我々は神の子とせられて、そして天国に行く、という望みが出て来ます。その望みが与えられたら、この世で何の苦しみもなくなる。安心しておれるのですから、自由です。これを「クリスチャンの自由」と言う。天国へ行くために、何もすることはない、これが自由です。

ですから、我々は与えられたことを誠心誠意やる。これは、給与をもらうためでもない。これを「愛」という。「愛」というものは、甘ったるいものではありません。「なすべきことをなすこと」これを「愛」という、私はそう思います。

「do」です。間違っているかもしれませんが。しかし、「do」（為す）だけではだめです。即ち、神の子とせられた信仰と望みとを持って、目の前のことをする、これを「愛」という。パウロは身を焼かれるために人に与えても、それは愛でない、と言いました。「愛」とは、むしろ心の状態です。それは自分の力ではなしに、神の贖いの力によって神の子とせられる、という心の状態。自分は天国に行かせて頂く、という望みの状態であります。この心の状態で与えられたことを行なう、これが「愛」であります。パウロの「信・望・愛」については、また、ロマ書で詳しく学びます。

神の子とせられ、必ず復活させてもらう——アガペー

本日は司会者に読んで頂きましたガラテヤ書第 5 章 13-15 節の 3 節に尽きまして、注解を加えたいと思います。分量は少なくありますけれども、意義は深く、ここで「愛」のことを述べているわけであります。キリスト教の生活を「愛の生活」と申しますが、日々の生活がこの 3 節にこもっております。…

この場所とともに、私はヨハネ第 1 の手紙第 4 章を付け加えたいと思います。それは、「愛」ということが非常に誤解されているからであります。例えば、我々、親が子に持っている愛とか、先祖が守って来たような忠誠の愛とか、また友人間での愛などと非常の混同されております。勿論これらと似た部分はありますけれども、キリスト教で「愛」というものは、原語では「アガペー」と呼びまして、これらの愛とは違う。私は原語を使用することはあまり好きではありませんが、「愛」ということに限っては、この原語「アガペー」という字を使った方が誤解を少なくすると思います。

ヨハネ第 1 の手紙、第 4 章 7-11 節「愛する者たちよ、私たちは互いに愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生まれた者であって、神を知っている。愛さない者は神を知らない。神は愛である。神はそのひとり子を世につかわし、彼によって私たちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さ

って、わたしたちの罪のために贖いの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互いに愛し合うべきである。」

これがキリスト教で言う「愛」の説明であります。このヨハネの「愛」の文章と、本日兄弟姉妹に読んで頂いたコリント前書の第13章の愛と、この二つの場所をどうしても併せて頭において頂かないと、この「愛」と我々のいう普通の愛とを混同してしまいます。これらの場所を含めて本日の箇所を学びたいと思います。…

「愛」「アガペー」というのは、ヨハネが言うとうり、「イエス・キリストによって現れた神の愛」であります。具体的に言えば、イエス・キリストを下して、我々が罪人であるときに、我々を贖って、我々を神の子として下さったことです。この「愛」を真（まこと）として信じることを「信仰」という。この信仰が与えられたら、神の子とされて復活させて頂くという望みが出て来ます。この「神の子とされた」という信仰と「復活する」という望み、即ち「信・望」、これはアガペーが移った形であります。自分はアガペーによって神の子とせられた、必ず復活させてもらうという心の状態が、アガペーを受けている状態であります。そういう心がなければ、行動をアガペーとは言いません。

毎日自分の前に置かれた義務を行なえ

「律法の全体は、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」というこの一句に尽きるからである。」(ガラテヤ書 5・14)

「己を捨てて隣人に仕えよ」と、誠に言葉は麗しくありますが、具体的にはどうしたらよいか。それは、毎日自分の前に置かれた義務を、神の子とせられたという信仰と復活の望みとをもって行うことでもあります。これを

「愛」という。私はそう確信します。これは万人に可能です。行なえなかったならば、行なうことを試みる「try to do」。試みること、これが「愛」「アガペー」であると思います。…

この教会に来て、私の聖書講義を聞いて下さっておりますが、キリスト教の信仰がよく分からなくてもよい。私が分からないのですから、聞く方もよくわからないでしょう。分からなくってもよろしい。要するに、自分の目の前の仕事に対して本当に誠心誠意、あるだけの力をもってこれに当たる。上手にできるか出来ないとか、ということは問題ではありません。「try」さえしたらそれでよい。それは名誉を得るためではなく、給料が上がるためでもなく、人のためでもありません。神が我々に与えた「愛」に応えて、復活を望みつつ、永遠の生命を望みつつ、その仕事に当たるということ、これで私のキリスト教は終わっています。

私の歌

私の歌はこれです。

主イエスと呼びて励まん 今日もまた

手に来るわざを 御国めあてに

「主イエスと呼びて」というのは、主はわが救い主であると、わがために十字架について、救い主として、私に永遠不滅の生命を与えて下さった「我が主よ」と、ちょうどトマスが言ったと同じ言葉であります。「主イエスよ」と呼ぶことは、信仰を告白していることでもあります。信仰です。「手に来るわざ」は、その「愛」の顕れであります。愛の実行であります。今日只今の為すべきことでもあります。これは職業だけではない。自分の目の前に現在置かれている為すべき業です。「御国目当てに」これはすなわち、望みです。ここに、信・望・愛が現れていますが、私の信仰はこれに尽きております。

力はどこから来るか

パウロはこの「信・望・愛」に尽きています。ロマ書及びガラテヤ書は、この「信・望・愛」を述べています。このことだけについて述べています。他のことは書いていないので、いよいよキリスト教の勉強になってきたら、ロマ書、ガラテヤ書になります。キリスト教で救いとはどういうことをいうのか、どうしたら救われるのか、救われた者はどう生活すればよいのか、この三つが根本問題です。これが分からなくて、教会に何十年来ていてもあまり意味がないと、私は思います。この三つがはっきりしていないから力が無い。力ははっきりしたのから出て来ます。

自分に与えられた仕事を誠心誠意やれ

諸君、自分の与えられたことに対して、誠心誠意をこめてやる、という精神がなければ、キリスト教の話を聞いても駄目であります。そういう精神がなければ、自分の罪ということが分かって来ない。自分の罪が分かって来なかったら、救いというものが分からない、ぼやっとしています。

祈る、この教会に出席される方は、自分の仕事を誠心誠意、ありったけの力を出してやって頂きたい。その仕事は出来ても、出来なくてもよろしい。下手な仕事でもよい。そんな立派な仕事をする必要はありません。ただ、自分がやるかやらないか、誠意をもってそれに当たっているかいらないか、が問題であります。